

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600542
法人名	有限会社 添田商産
事業所名	グループホーム かがやき
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡川崎町川崎112番地 (電話)0947-72-7950

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月12日	評価確定日	平成20年12月15日

【情報提供票より】(平成20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水道・光熱費)10,000円	
敷金	有( )円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 900円				

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	75歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川病院 / 川崎町立病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊前川崎駅から本町商店街を通り抜け住宅地が広がる、小高い丘に500坪を有するグループホームかがやきは立地している。四季折々の眺望が楽しめ、広々とした庭は門がなく、地域との交流を育むスペースとして代表者の思いが込められている。ホームのリビングから眺められる庭は日本庭園となっており、入居者が季節感をリビングに居ながらも楽しめるように工夫している。ホームは全体的にゆったりとした造りで木を基調とした空間で、明るく清潔感のある空間となっている。ホーム内は入居者自身の手作りの人形や入居者と職員で作上げた作品・保育園児からの贈り物としての作品などが飾られ、家庭的な温かい空間となっている。管理者・職員は、これまでの入居者の暮らしの習慣を大切に、干し柿や白菜漬けなど、季節ごとの味覚や楽しみを大事にしている。代表者・管理者・職員が入居者のこれまでの普通の暮らしが継続できるように支援しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の主な改善課題として、筋力低下を重視したケアやサービスに偏りがあり、会話の中から入居者の行きたいところやしたいこと、興味のあることをつかみ取り、その人らしさを掘り下げ、暮らしを支えるケアやサービス提供を行うことが挙がっていた。管理者・職員と共に、入居者の笑顔ある豊かな暮らしを支援するために課題に向けて一丸となって取り組んでいる。また、買い物・図書館・散歩など外出の機会を増やすと共に個別対応の充実を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価により改善課題を把握し、次年度に向けての目標として具体的に改善に向けて会議を行い課題解決に向けて取り組んでいる。実際には、今年は「音楽の年」としてテーマを決め、受身から参加して楽しむなど、ホームの暮らしを豊かなものにするため、積極的に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に2ヶ月に1回開催している。運営推進会議には、大峰郵便局長・行政区長・民生委員・高齢者福祉課・家族代表が参加し、行事報告や活動報告を行っている。地域の高齢化の現況から、今後の展開として小規模多機能型居宅介護施設の検討もを行い、地域の問題点や課題なども視野に入れた検討を行っている。また、会議の中では、地域や町の情報提供があり、川崎町の神幸祭の際に地域の方にトイレを開放したり、駐車場として利用できるなど、地域貢献として実際に行い、地域性を考慮した取り組みを行っている。また、運営推進会議の場を活かし「介護でのSO S」の機能を果たしていくことを計画している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会が多く、その都度、コミュニケーションを取り、要望や意向などを言ってもらえるように取り組んでいる。また、定期的に入居者へアンケートなどを行い、意見や苦情などは家族と相談しながら対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの行事に地域の方が参加したり、地域行事(文化祭・お祭り・盆踊り)などに参加するなど、地域との関係を高めている。また、保育園や小学校との交流も行っている。ホームのかがやき通信(2ヶ月に1回発行)では、地域に向けて「お気軽にお立ち寄り下さい」という内容で「介護の悩みや相談は遠慮なくご相談下さい」と情報発信を行い、地域密着型サービスとしての役割を果たしている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	理念は地域密着型サービスの主旨をふまえ、「地域の皆さんと明るく楽しく助け合い、今日も1日笑顔でかがやきましょう」と掲げ、事業所独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は食堂の壁に大きく墨文字で書かれ、日々のケアやサービス提供の中で、毎日、管理者・職員と共に振り返り、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	代表者は川崎町出身であり、ホームの敷地は昔から代表者が経営する工場が建っており、地域とは昔なじみの関係にある。自治会老人会の一員として認めていただき、地域行事に入居者・職員共に参加している。地域との連携を図るために「平成20年度年間行事・レクの方針と予定」が定められ、図書館の行事の情報収集・老人会などの催しの情報収集など担当を決めて、地域情報を密に把握し、活動参加や支援ができるように取り組んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価により改善課題を把握し、次年度に向けての目標として具体的に改善に向けて会議を行い、課題解決に向けて取り組んでいる。実際には、今年は「音楽の年」としてテーマを決め、受身から参加して楽しむなど、ホームの暮らしを豊かなものにするため、積極的に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期的に2ヶ月に1回開催している。運営推進会議は、行事報告や活動報告を行い、地域の高齢化の現況から、今後の展開として小規模多機能型居宅介護施設の検討もを行い、地域の問題点や課題なども視野に入れた検討を行っている。また、会議の中で、地域行事の際の地域貢献としてトイレの開放・駐車場としての利用なども検討し取り組んでいる。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	グループホーム開設の経緯として、地域の高齢化の問題が深刻になる中、代表者の工場の敷地を活かすことが期待され、行政との連携によりホームが開設できた状況がある。そのため、日頃から相談などができる関係を築いており、情報交換などにより、サービスの質の向上へ取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関しては、市町村の講習会に参加し、入居者や家族が利用できるようにパンフレットなどを準備している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、家族にホームの様子を記した手紙や金銭出納の報告を行い、2ヶ月に1回、行事や写真を載せた「かがやき通信」を送付している。家族の面会が多く、その都度、コミュニケーションを取り、要望や意見を言っていたけように積極的に話しかけ意見交換に努めている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族の面会が多く、その都度、コミュニケーションを取り、要望や意向などを言っていたけように取り組んでいる。また、定期的に入居者へアンケートなどを行い、意見や苦情などは家族と相談しながら対応している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	基本的になじみの職員によるケアを心がけている。モニタリングは毎回、違う職員が担当し、各職員が入居者を把握できるように努め、職員の異動や離職があった場合でも、他の職員がサポートできるように取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	働く意欲や向上心・優しさがある方を中心に採用している。無理のない勤務体制でスキルアップのための支援を行っている。性別・年齢などは採用にあたっては問うていない。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	平成20年7月の川崎町主催の同和問題啓発講演会に参加している。知りえた情報は職員に伝達研修を行っているが、伝達研修の記録がないため、今後、記録の整備が求められる。		伝達研修の記録の作成が必要である。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	研修会や勉強会に積極的に参加できるように取り組んでいる。今後は、行政や県社会福祉協議会など研修情報を把握し、計画的に職員が研修を受講できるに取り組むことが期待される。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	本年11月よりグループホーム連絡協議会に加入している。また、来年度には隣接の町の研修会に参加する予定があり、同業者とのネットワークを高めるために積極的に取り組んでいる。今後は、ネットワークを活かし、認知症ケアの理解を育む活動など期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、家庭訪問を実施したり、入居者・家族の悩みや相談を把握し、見学や体験入居などを通して、入居者と職員のなじみの関係を配慮し、安心して入居できるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者一人ひとりの生活歴や残存能力を充分発揮できる場を暮らしの中で大切にしている。季節に応じて、漬物や干し柿づくりなど、これまでの暮らしの習慣を大切に支援している。その際、職員は、昔の方法を学んだり、入居者の智恵を活かした取り組みを行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	思いや意向の把握	毎月、月末に介護実践記録で「1.暮らしのパートナーとして一緒に楽しもうとしていますか 2.相手の問いかけ・表情に耳を傾けて真意を汲みと取ろうとしていますか 3.どのようなことを望まれていますか、楽しそうにされている時はどんな時でしたか、短期目標に達していますか」を日々意識して取り組むようにモニタリングを行い、思いや意向の把握に努めている。今後はセンター方式の一部活用なども期待したい。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	ケアマネージャが精神科の看護師としての経験があり、暮らしの楽しみなど生きがいある暮らしの実現に取り組んでおり、ニーズの把握～介護計画・サービス内容まで、一連の流れができています。入居者一人ひとりに応じたプラン作成に努め、アセスメントの一部にセンター方式を採用していきたいと考えています。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	全ての入居者にタイムリーに介護計画の見直しを行い、状態の変化に応じて、追加・削除・修正など柔軟に対応している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	地域の行事の際には、トイレの使用提供や駐車場の利用など、地域への協力を行っており、地域の介護相談を受ける体制などを整え、地域密着型サービスの役割を果たそうと努めている。(地域のSOSとして介護教室などを予定している)		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の意見を尊重し、かかりつけ医への受診を支援している。また、看護師が常勤し、医療機関との情報交換を行い適切な医療を受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	現在、医療連携加算に関して検討段階にあり、重度化に向けて、入居者・家族の意向、職員の考えも含めて体制づくりなど検討の段階である。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの個性を尊重し、声かけ・受け答えに配慮している。個人情報の保護には鍵のかかる書庫に管理・保管している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームでの1日の流れの中に入居者の生活リズムを取り入れ、希望にそった自分の暮らしができるように支援している。読書を好まれる方は図書館に行き本を借りたり、季節の漬物を漬けたり、本人本位の暮らしの実現に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	個々の能力に応じて、食事の準備・片づけ・食器洗いを行っている。個別には、入居者と買い物に出た際に職員と共に外食を楽しむなど工夫している。また、1週間に1回、クッキング教室などもあり、たこ焼きプレートでたこ焼きづくりを楽しむなど食事を作る楽しみを支援している。季節に応じて七草粥などの献立の工夫や晩酌のビールも楽しんでいただいている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は週3回を目安に希望に応じて入浴支援を行っている。入浴日でない日や夏季の外出後には、シャワー浴なども取り入れている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の経験や知恵を発揮する場や役割(掃除・買い物・洗濯物干し・園芸・生け花・草取り)を状況に応じて担っていただき、入居者の楽しみ(布ぞうり・人形・お手玉・文化祭出展のための作品づくり・季節に応じた漬物づくりなど)を支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	季節を感じていただくために、日課である散歩やドライブ(桜花見・菖蒲・紫陽花見学・ぶどう狩りなど)を楽しんでいただいている。また、外出の機会として往診よりも受診を支援し、受診と共にドライブを楽しんでいただくように取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関にセンサーを設置し、常に見守り、安全への配慮を行い、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防訓練は年2回行っている。消火器置き場点検は入居者が位置を動かすため、毎日行っている。緊急時の対応は、地域の連携・協力が可能となっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	四季の旬の野菜をおりませながら新鮮な食材を提供し、栄養のバランスを考慮している。病食についても個別の献立が提供されている。水分摂取量の記録もあり、担当医に報告するなど、水分確保に努めているが、水分摂取量の目標を1000ccから1200ccとすることが期待される。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有空間は、広くゆったりしており、日当たりもよく、気持ちが良い空間となっている。共用空間の扉は開閉が自由な扉の工夫により、空間の利用がいろいろでき、ゆったりと過ごすことができるようになっている。入居者手づくりの人形も飾られ、家庭的な環境である。また、共用空間からは日本庭園を眺めることができ、ウッドデッキにより、日本庭園での日向ぼっこも楽しむことができるように工夫している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、これまでの暮らしの延長として、仏壇・テレビ・ソファ・椅子など使い慣れた家具類が置かれ、写真などの思い出や折り紙が飾られ、入居者それぞれの自分の住まいとしての工夫があり、居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			